SLJ-15

STEREO

ST 33

山は夕焼

ポリドール・オーケストラ

Polydor

山は夕焼

編曲：川上　義彦
演奏：ポリドール・オーケストラ

歌は思い出の泉と云えましょう。ある時は青春の情熱を謳う胸に潤いを、ある時は人生の悲哀を秘めた心に慰めを与える、多くの歌。何時の世にも限りない思い出を綴って歌われているのです。

年々才々生まれては消えて行く歌謡曲の中、ここに集めた十曲は、『ナツメロ』と云うには余りにも懐しく、昭和の古き良き時代の香り豊かな思い出のヒット曲ばかり……オールド・ファンの忘れ得ぬ涙と歓びが湛えられております。

さて時移り星変って世はステレオ時代、ダイナミックな音楽を楽しみながら、「帰らぬ夢を今ひとたび」と過ぎし若き日をふりかえっていただきましょう。

A　面

一、山は夕焼

山は夕焼　麓は小焼
一人とぼとぼ　裾野に暮れりゃ
吹くな風　わびしゅてならぬ
心しみじみ　旅の鳥

（詩：岡田千秋、　唄：東海林太郎。昭和9年8月発売）

国内に軍閥政治が台頭し、平和の空の下とは言いながら、正に風雲急を告げようとする……そんな不安な世相を反映してか、このような詩情豊かなメロディーまでが一沫の哀愁を帯びて歌われたのです。東海林太郎のヒット曲でした。

二、徳利の別れ

さげた徳利を　撫でながら
仇を打つ日は　何時のこと
明日は明日で　酔うて寝りゃ
夢で兄者が　又叱かる

（詩：野村俊夫、　唄：上原敏。昭和13年4月発売）

御存知赤穂四十七士の一人、赤垣源蔵「徳利の別れ」の一駒です。此の歌は支那事変のまっ最中に世に出、日夜相次ぐ「出征兵士歓送会」の席上で万感の思いをこめて歌われたものでした。戦争のためとは云いながら、今様赤垣源蔵がいかにも多かったでしょう。今も尚痛恨の涙を誘うメロディーです。

三、道頓堀行進曲

赤い灯青い灯道頓堀の
川面にあつまる恋の灯に
なんでカフエーが忘らりょか

（詩：日比繁次郎、　唄：内海一郎。昭和3年12月発売）

今更申し上げるまでもない大阪は道頓堀の、というよりも日本の歌謡曲の代表作品であります。

今はロマンス・グレーとなった年配者の心に、かつて、「ステッキのモボよ、ミミカクシのモガよ」と騒がれた颯爽たる青春を、一杯僅か50銭のジョッキをサービスした白いエプロンの女給の面影と共に甦えらせることでしょう。イルミネーションが珍らしかったカフエ全盛期の郷愁を呼ぶ名曲であり、まことに太平楽な夢のメロディーであることを思えば、当節のリバイバル全盛もまた、むべなるかなというべきです。

ともあれ、此の曲の流れる限り、平和なうれしい世の中と云えましょう。

四、潮来夜船

雨はやんだに　晴れたのに
娘船頭さん　なぜ泣くの
独りぐらしが　哀しいか
旅のお方が　恋しいか

（詩：藤田まさと、　唄：北廉太郎。昭和14年9月発売）

名勝水郷の豊かな旅情を背景に、静かに流れる人情を情緒纏綿に描き、人々の心に稲の緑、水の青さ、そして娘船頭さんの紺がすりを彷彿させ、ゆたかな潮来の流れに旅愁を誘う……船もの作曲家第一人者倉若晴生にふさわしい絶品です。

五、鴛鴦道中

堅気育ちも　重なる旅に
いつかはずれて　無宿者
知らぬ他国の　たそがれ時は
俺も泣きたい　ことばかり

（詩：藤田まさと、　唄：上原敏、青葉笙子。昭和13年1月発売）

ポリドール黄金期の立役者、藤田まさと、上原敏の股旅歌謡コンビになる「妻恋道中」「親恋道中」を含む道中もの三部作の一つ。

特にこの歌は、折りしも長期戦化しはじめた支那大陸で、内地を遠く離れた兵士達の心に一脈相通ずるものがあってか、月明の露営地でよく愛唱された名曲です。

B　面

一、大江戸出世小唄

土手の柳は　風まかせ
好きなあの子は　口まかせ
ええしょんがいな
あゝしょんがいな

（詩：湯浅みか、藤田まさと、　唄：高田浩吉。昭和10年5月発売）

永遠の美青年として銀幕に君臨する高田浩吉が、全くの好男子ぶりを世に騒がれ始めた頃、スクリーンいっぱいに瓦版片手に歌いまくった松竹下加茂作品「大江戸出世小唄」の主題歌として大ヒット。明快なリズムは、映画ファン、浩吉ファンの女性連は云わずもかな、ご用聞きのアンちゃんの間にまで広く流行したものでした。

二、サムライニッポン

人を斬るのが侍ならば
恋の未練がなぜ斬れぬ
のびた月代寂しく撫でて

新納鶴千代　にがわらい

（詩：西条八十、　唄：徳山璉。昭和6年3月発売）

いわゆるチャンバラ映画華やかなりし頃、日活のニッポン三部作シリーズ映画の一篇、今は亡き大河内伝次郎主演「侍ニッポン」の主題歌として、エログロナンセンスの世に「剣に強いが、情に弱い」薄幸の剣士新納鶴千代を颯爽と謳いあげたこのメロディーは時代劇映画の主題歌としてのヒット第一号であり、今もなお男の道の空しさを訴えて歌い続けられております。

三、名月赤城山

男ごころに　男が惚れて
意地が溶け合う　赤城山
澄んだ夜空の　まんまる月に
浮世横笛　誰が吹く

（詩：矢島寵児、　唄：東海林太郎。昭和14年11月発売）

〜〜〜秋冷落漠一刻二刻、月影冴える赤城の山に、日光の円蔵が奏でる笛の音は、むせぶが如く流れている。詮議厳しい八州捕方の囲みをぬけて赤城落ち……行くは、信濃路秋葉の里〜〜〜

おなじみ国定一家の悲話にまつわる、忠治と円蔵の男と男の情義を浮き彫りにした、日活映画主題歌。

四、お駒恋姿

七つ八つから　容貌よし
十九二十で　帯とけて
解けて結んだ　恋衣
お駒才三の　はずかしさ

（詩：藤田まさと、　唄：東海林太郎。昭和10年10月発売）

日本調歌謡曲作家の第一人者大村能章の秀作の一つ。優雅な曲調は、歌の文句ではありませんが、七つ八つの子供達にまで親しまれ、当時の封建的思想の親達を慌てさせたものでした。こう云えば面映ゆい思いのするお母様方がいらっしゃることでしょう。いやはや流行歌が子供に与える影響云々は、現代ばかりではないのである……というわけです。ともあれ、それ程に広く歌われた優すべきメロディーなのです。

五、湖底の故郷

夕陽は赤し　身は悲し
涙は熱く　頬濡らす
さらば湖底の　わが村よ
幼なき夢の　揺籠よ

（詩：島田磬也、　唄：東海林太郎。昭和12年6月発売）

当時の新聞をひもとけば……

「文明の進歩の蔭に犠牲となる少数の人々の悲哀は避け難いものであろうか？　山や谷を縫って乗合自動車が開通して行く時に、先ず駆逐されたものは馬車であり　御者たちの失業の悲しみを乗せて耳なれたラッパの響きが消えて行ったのである。茲に膨張に膨張を続ける大東京市六百万の人口に水を供給するため、やがては世界第3位の大ダムが完成すると共に水底に沈もうと、日蔭の村がある。ハイキングで知られた奥多摩渓谷の上流、小河内村六百戸三千名の運命がそれである。」と。

かくて　村人達は「百目柿が食えなくなる」と、素朴な愛着を涙の中に断って、湖底に沈み行く郷里からはなれ行き、そして村人達の感傷を謳い上げた此の曲が、全国の同情を呼んでヒットしたのです。

あれから26年、今夏（昭和37年）には、昭和32年に漸く完成した奥多摩湖、水も枯れ果てて、懐かしい村道や馴染み深い山肌を再び見ようとは……倍増した東京都の人口と共に万人の夢想だにしなかった事でありましょう。

思えばまこと、文明の悲話ではないでしょうか、心してお聞きいただきたいものです。

（解説　井上幸七）

A　面

一、山は夕焼　田村しげる（二分四七秒）
二、徳利の別れ　阿部　武雄（二分二七秒）
三、道頓堀行進曲　塩尻　精二（二分五五秒）
四、潮来夜船　倉若　晴生（二分二三秒）
五、鴛鴦道中　阿部　武雄（一分四六秒）

B　面

一、大江戸出世小唄　杵屋正一郎（一分五五秒）
二、サムライニッポン　松平　信博（二分二五秒）
三、名月赤城山　菊地　博（二分五〇秒）
四、お駒恋姿　大村　能章（二分三二秒）
五、湖底の故郷　鈴木　武男（二分四五秒）

¥ 1,200
ポリドールレコード
SLJ-15
日本グラモフォン株式会社
MADE IN JAPAN

STEREO

"ALL RIGHTS OF THE RECORD MANUFACTURER AND OF THE OWNER OF THE WORK RECORDED RESERVED: COPYING, PUBLIC PERFORMANCE, BROADCASTING OF THESE RECORDS ARE FORBIDDEN."

Polydor

ST 33

SLJ-15

A

山は夕焼

1. 山　は　夕　焼（田村しげる）
2. 徳利の別れ（阿部武雄）
3. 道頓堀行進曲（塩尻精二）
4. 潮来夜船（倉若晴生）
5. 鶯鳴道中（阿部武雄）

（編曲：川上義彦）

ポリドール・オーケストラ

STEREO

"ALL RIGHTS OF THE RECORD MANUFACTURER AND OF THE OWNER OF THE WORK RECORDED RESERVED: COPYING, PUBLIC PERFORMANCE, BROADCASTING OF THESE RECORDS ARE FORBIDDEN."

Polydor

ST 33

SLJ-15

B

山は夕焼

1. 大江戸出世小唄（柞屋正一郎）
2. サムライニッポン（松平信博）
3. 名月赤城山（菊地　博）
4. お駒恋姿（大村能章）
5. 湖底の故郷（鈴木武男）

（編曲：川上義彦）

ポリドール・オーケストラ

MADE IN JAPAN